

〔2週連続〕国際研究集会の御案内

東京大学史料編纂所では、ロシアに所在する日本関係史料の系統的な調査・研究と収集に取り組み、現地の研究機関と協力して国際研究集会や共同研究を行っています。今回は2週連続、通算18・19回目となります。サンクトペテルブルクから計4名の研究者を招聘し、ロシアの研究所や文書館が所蔵する史料群に基づいた報告をお願いしています。5月28日(15:00～、大会議室)に開催する第2週は、サンクトペテルブルクにおける日本コレクション形成史についてご報告いただきます。ぜひご参加ください。

日露関係史料をめぐる国際研究集会

日時:2018年5月21日(月)、14:00～17:00

会場:東京大学史料編纂所(大会議室)

▼報告1:ワジム・クリモフ上級研究員
(ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所)

「レザノフ使節が持参して日本人が受け取らなかったロシアの贈り物—日露関係のなかで成立しなかった歴史から—」

▼報告2:ワレンチン・スミルノフ館長
(ロシア国立海軍文書館)

「日本の諸港に来るロシア軍艦は皆この国が友好国だと感じる—明治期の日露関係エピソードの数々—」

▼報告3:セルゲイ・チェルニャフスキー館長
(ロシア国立歴史文書館)

「天皇睦仁に関する情報—ロシア国立歴史文書館所蔵文書より—」



東京大学史料編纂所所蔵「ロシア使節レザノフ来航絵巻」

※終了後、レセプションを予定。



共催/東京大学史料編纂所 ・日本学士院

連絡先: 科研事務局 03-5841-8411

科学研究費補助金基盤研究(S)「マルチアーカイヴアル的手法による在外日本関係史料の調査と研究資源化の研究」(研究代表者: 保谷 徹)

※本集会は日本学士院による日本関係未刊行史料調査事業(国際学士院連合関係事業)の一環として行われます。

※史料編纂所大会議室(会場)は研究所の向かい側の建物、地下1階です。

〔2週連続〕国際研究集会の御案内

東京大学史料編纂所では、ロシアに所在する日本関係史料の系統的な調査・研究と収集に取り組み、現地の研究機関と協力して国際研究集会や共同研究を行っています。今回は2週連続、通算18・19回目となります。サンクトペテルブルクから計4名の研究者を招聘し、ロシアの研究所や文書館が所蔵する史料群に基づいた報告をお願いしています。5月21日の第1週に引き続き、サンクトペテルブルクにおける日本コレクション形成史についてご報告いただきます。ぜひご参加ください。

日露関係史料をめぐる国際研究集会 2

日時:2018年5月28日(月)、15:00~16:30

会場:東京大学史料編纂所(大会議室)

▼報告1:保谷 徹教授(東京大学史料編纂所)

「在外日本関係史料の調査事業とロシアにおける日本コレクション」

▼報告2:ワシーリー・シェプキン上級研究員 (ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所)

「長崎に限らない—近世日本古典籍がロシアに渡った経緯について—」

▼コメント:ワジム・クリモフ上級研究員(同) ほか

ロシアの旧都サンクトペテルブルクで次々と「発見」された日本コレクションには、大友宗麟のフランキ砲をはじめ、19世紀初頭の北方紛争によってロシアへ持ち去られた接収品が含まれていることが次第にわかってきました。今回は、旧東洋学研究所(アジア博物館)の日本コレクション形成史について、ご報告をいただきます。



東洋古籍文献研究所蔵「大福帳」(北蝦夷地ア
ニワ湾沿岸での日本人商人とアイヌの人々の
交易帳簿): 翻刻・翻訳の共同研究を実施中

共催/東京大学史料編纂所・日本学士院



連絡先: 科研事務局 03-5841-8411

科学研究費補助金基盤研究(S)「マルチアーカイヴアル的手法による在外日本関係史料の調査と研究資源化の研究」(研究代表者: 保谷 徹)

※本集会は日本学士院による日本関係未刊行史料調査事業(国際学士院連合 関係事業)の一環として行われます。

※史料編纂所大会議室(会場)は研究所の向かい側の建物、地下1階です。